

# 千葉大学における技術系職員 のワーク・ライフ・バランス

～ 支援利用状況と問題点 ～

千葉大学工学部 酒井朋子

# 自己紹介

---

- 1978年より千葉大学工学部画像工学科文部技官
- 現在、工学部物質科学コース技術専門職員
- 2018年3月 定年退職後、再雇用予定
  
- 独身、子供無し
- 父は他界、闘病当時は介護休業制度無し
- 母(84歳)と同居、扶養親族無し



ワーク・ライフ・バランス支援 利用無し

# ワーク・ライフ・バランスへの関心度

---

- 女性研究者育成の取り組み開始(2005年)
- 両立支援企画室設置(2006年)
- 各部局に両立支援室設置(2007年)  
女性専用休憩室設置が設置され、  
教職員のワーク・ライフ・バランス支援設備・制度や  
女性研究者支援体制を整備する



自分には直接関係がないが  
良い制度ができる時代になった

# ワーク・ライフ・バランスへの関心度

---

- 医学部に女性専用休憩室がない！（2014年）  
女性専用休憩室：西千葉キャンパス本部  
マタニティーコーナー：看護学部
- 同僚の男性技術職員が育児部分休業制度を利用（2016年）



全教職員がもっと関心を持ってよい  
取り組みではないか？

# ワーク・ライフ・バランスへの関心度

---

- 同居する母が入院（2017年9月）  
看病・手続きのために有給休暇  
将来、介護が必要となる時の予行演習
- 育児休業取得の男性技術職員が  
代替要員を確保できず、休業中も毎週1時間  
出勤していた（2017年12月）



WLB支援の実態はどのようなものか？

# ワーク・ライフ・バランスへの関心

## WLB(Work Life Balance: ワーク・ライフ・バランス)の定義

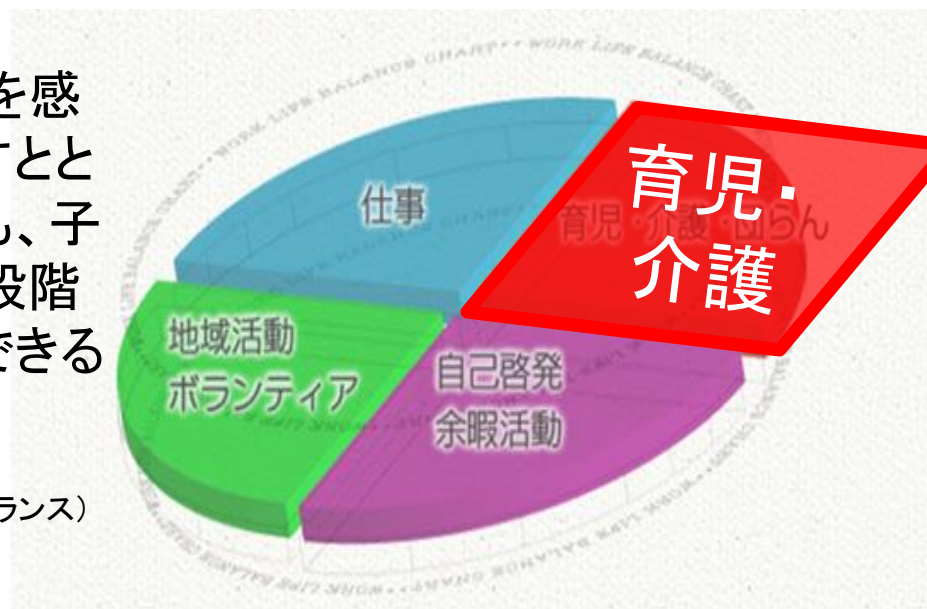
老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態である。

平成19年7月 男女共同参画会議「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する専門調査会」

## WLBの実現した社会

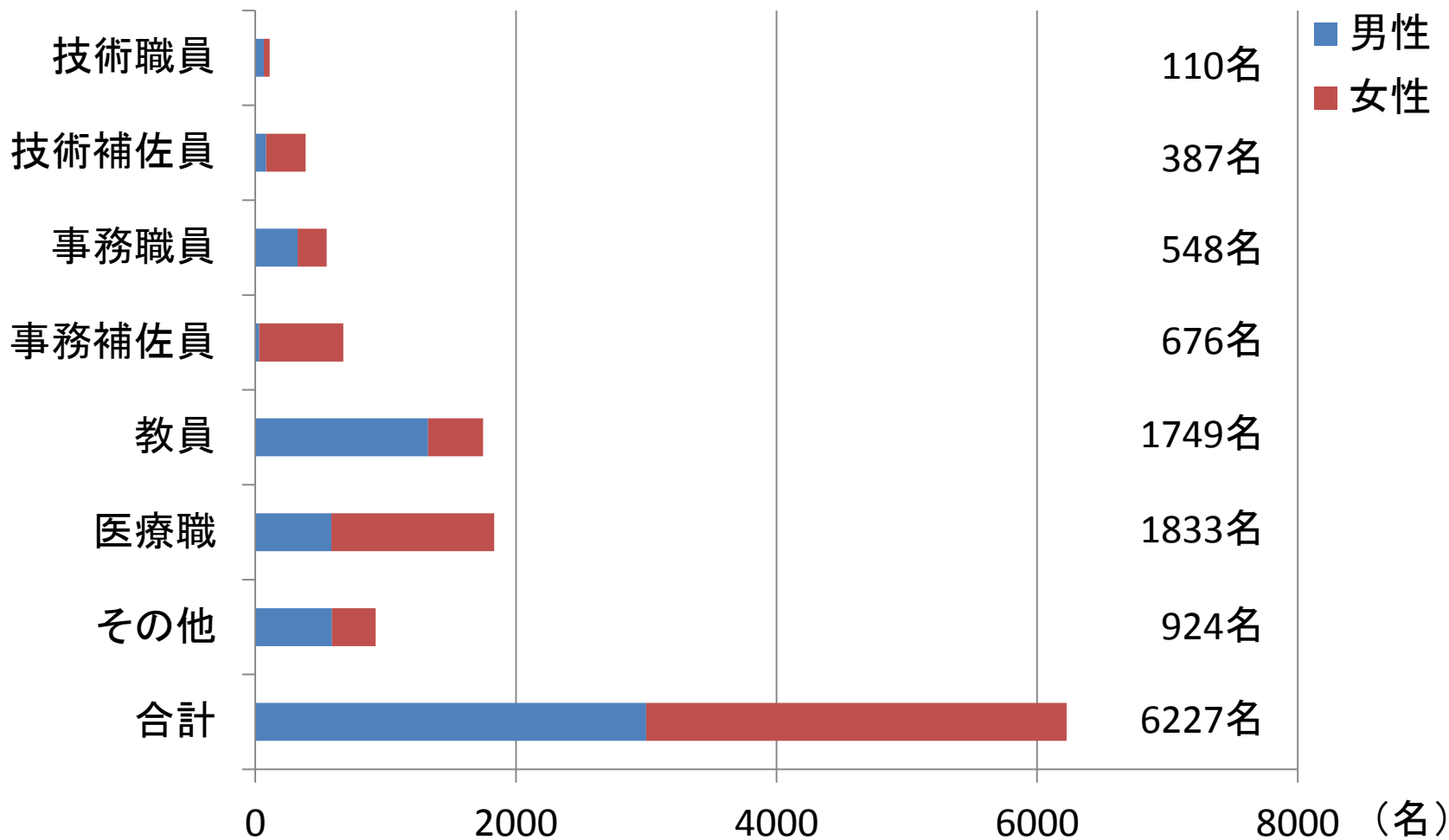
国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会。

平成19年12月 内閣府「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」「仕事と生活の調和推進のための行動指針」より



# 千葉大学の技術職員数と キャンパス事情

# 千葉大学の職員数(2017)





# 千葉大学のキャンパス事情



西千葉キャンパス  
国際教養学部  
文学部  
法政経学部  
教育学部  
理学部  
工学部  
大学本部  
機構・センター



松戸キャンパス  
園芸学部



柏の葉キャンパス  
環境健康フィールド  
科学センター  
都市環境園芸農場



環境健康フィールド  
科学センター  
森林環境園芸農場  
(群馬県沼田市)



環境健康フィールド  
科学センター  
海浜環境園芸農場  
(静岡県熱川市)



亥鼻キャンパス  
医学部  
薬学部  
看護学部  
医学部附属病院  
センター



海洋バイオシステ  
ム研究センター  
小湊実験場



海洋バイオシステ  
ム研究センター  
銚子実験場



千葉県

# 千葉大学技術系職員数

技術系職員数【477名】

常勤 / 非常勤 / 再雇用

110名 / 358名 / 9名



186名  
39/144/3

## 西千葉キャンパス

国際教養学部	0/4/0
文学部	0/7/0
法政経学部	0/6/0
教育学部	0/2/0
理学部	1/24/0
工学部	17/23/2
大学本部	19/0/0
機構・センター	2/78/1



16名  
0/16/0

## 松戸キャンパス

園芸学部	0/16/0
------	--------



10名  
10/0/0

## 柏の葉キャンパス

環境健康フィールド 科学センター	10/0/0
---------------------	--------



3名  
0/3/0

環境健康フィールド  
科学センター  
森林環境園芸農場



3名  
0/3/0

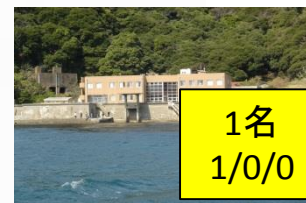
環境健康フィールド  
科学センター  
海浜環境園芸農場



257名  
59/192/6

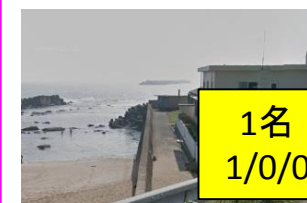
## 亥鼻キャンパス

医学部	24/87/3
薬学部	1/16/0
看護学部	2/4/0
医学部付属病院 センター	32/55/3 0/30/0



1名  
1/0/0

海洋バイオシステ  
ム研究センター  
小湊実験場 1/1/0



1名  
1/0/0

海洋バイオシステ  
ム研究センター  
銚子実験場 1/0/0



千葉県

# 千葉大学における ワーク・ライフ・バランスの取り組みと 利用状況

# 男女共同参画推進部門

(旧 両立支援企画室)

- 教職員の研究・教育・事務などの職務と、育児・介護などの両立を支援するために発足(2006年)
- 取り組み内容
  1. WLBに関する相談窓口
  2. 女性専用休憩室等学内施設
  3. 資料ライブラリー
  4. 育児に関する支援(設備や制度)
  5. 育児に関する支援(病児保育勉強会)
  6. 介護に関する支援



# WLBに関する相談窓口

---

- 仕事と家庭の両立に関する相談ができる
  - キャリアコーディネーターが相談に応じる
  - 女性研究者のためのキャリアプランシートの利用
  - 女性研究者のためのメンターへの相談
- 
- どの支援が受けられるか
  - メールによる相談が多い



# 育児について

# 女性専用休憩室

## 【西千葉キャンパス】

- ・平日9:00～17:00  
(女性がいない時、男性もおむつ替え・授乳のみ利用可)
- ・休憩スペース2名分
- ・マタニティーコーナー2室
- ・ベビーシート2カ所
- ・リクライニングシート
- ・1階にベビーカー置き場有り
- ・エレベーター無し



## 【亥鼻キャンパス】

- ・平日9:00～17:00  
(学務業務時間内)
- ・マタニティ・パタニティルーム
- ・おむつ替えシート&ベビーキープ
- ・マタニティーコーナー
- ・両立支援マップ

救護室:

- ・パーテーション2枚
- ・電動リクライニングソファ1台

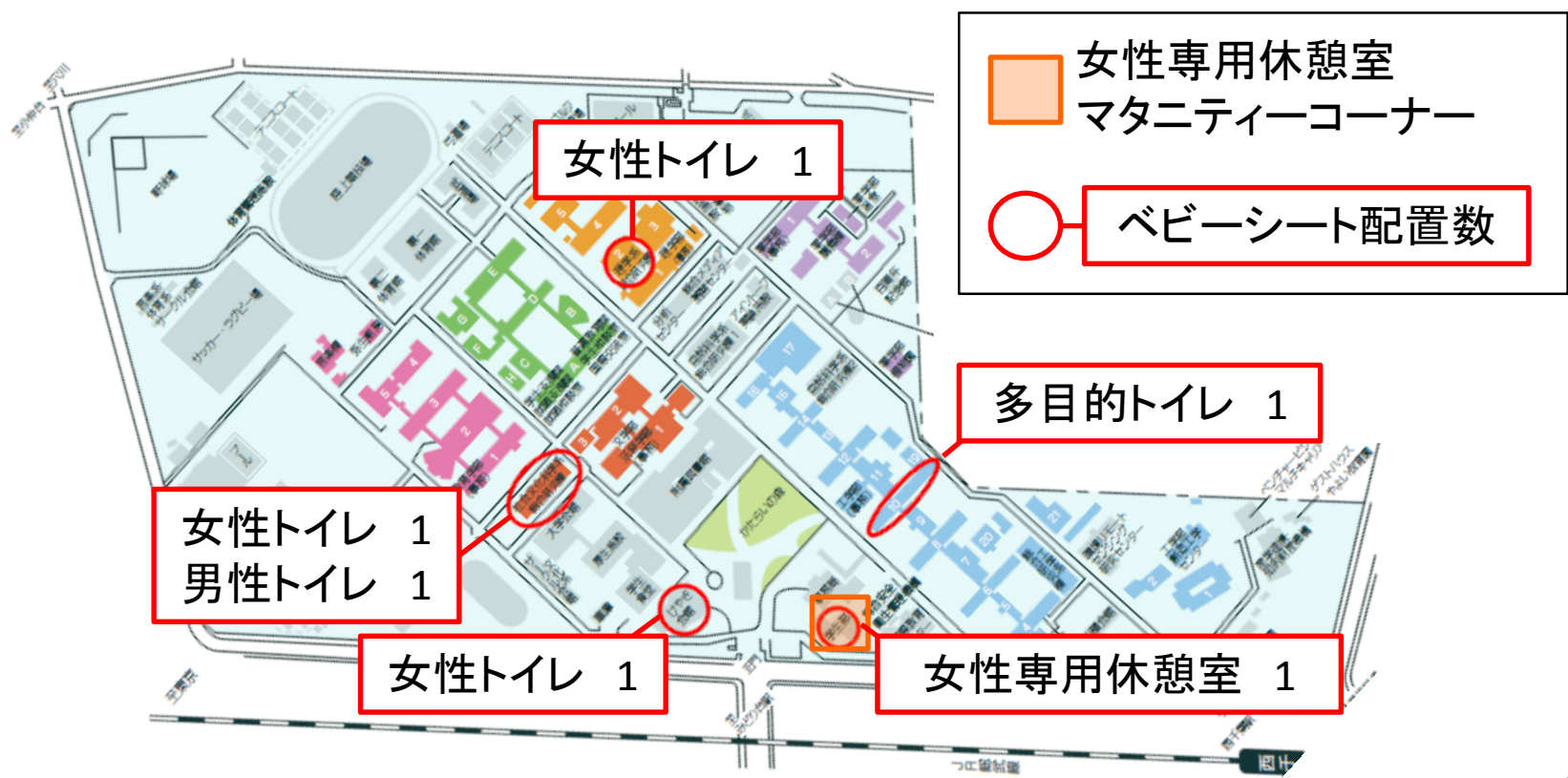






# 学内施設

## 【西千葉キャンパス】 女性専用休憩室(本部共通棟) ベビーシート





# 学内施設

## 【松戸キャンパス】 ベビーシート



# 学内施設

## 【柏キャンパス】 ベビーシート

○ ベビーシート配置数



# 学内施設

## 【西千葉キャンパス】 学内保育園

常時保育 本学教員、職員・研究従事者、学生、留学生のお子様 20名

特定保育 「理系女性教員キャリア支援プログラム」雇用の本学教員、  
東邦大学、放射線医学総合研究所の研究者のお子様 10名

保育年齢：生後57日目(0歳)～小学校就学前



やよい保育園

# 学内施設

## 【西千葉キャンパス】 和室無料貸し出し

- ・千葉大学で学会や研究会等を開催する際の学会関係者や参加者の子供の一時預かり及び保育
- ・12歳以下対象
- ・主催者が責任の持てる専門の保育担当者を配置する



# 資料ライブラリー



- ワーク・ライフ・バランスに役立つ情報に関する書籍やDVD、15ジャンル221冊
- 室内で閲覧、教職員には学内便で貸し出し可
- 認知度・利用頻度が低い

ジャンル名	冊数	ジャンル名	冊数	ジャンル名	冊数
子育てに役立つ	24	男女共同参画&ジェンダー	15	研究者の生き方を知る	29
子育て支援	8	女性の生き方・働き方	17	研究に役立つ	22
WLB	13	女性医師のキャリア	3	コーチングを学ぶ	16
家族を考える	4	キャリア支援	14	経済学など	12
介護に役立つ	6	キャリアデザイン	17	その他	21

# 育児に関する支援：各種制度

---

## 1. 研究支援要員配置制度

妊娠中・産後復帰・育児・介護負担のある研究者の希望者に、研究支援要員を配置

## 2. 妊娠中の女性を支援する制度

勤務時間内でも健康診断・保健指導を受けられる、ラッシュアワーを避けた通勤、勤務の軽減等の支援、女性専用休憩室の利用

## 3. 育児支援（育児クーポン）

就労の為に自宅でベビーシッター保育を利用する場合、ベビーシッター派遣事業割引券（育児クーポン）」を交付して費用の一部を大学が負担

## 4. 育児・不妊治療を支援する制度

育児短時間勤務制度、育児部分休業、不妊治療にかかる休暇の利用

## 5. 病後児保育支援

病気や怪我の回復期の子供を登園・登校させることが困難で、自宅でベビーシッターによる保育を利用する場合、ベビーシッター派遣事業割引券（育児クーポン）」を交付して費用の一部を大学が負担



# 不妊治療にかかる休暇の利用

---

職員が不妊治療のために入院・通院する場合で勤務しないことが相当であると認められる場合、一の年に10日の範囲まで病気休暇として扱う

不妊治療のための休暇を認めているのは画期的なことでは？

# 育児に関する支援：病児保育勉強会

- 小児科医による病児ケアに関する勉強会
  - 毎年1回開催
  - 予防接種、感染症予防、
  - 記録動画をDVDで貸し出し可
  - テーマ：アレルギー疾患、急病、新型インフルエンザ、ノロウイルス、マイコプラズマ、ロタウイルス等
- 
- 参加者約50名、半数が教育学部学生
  - 孫のために受講する祖父母世代も増加



# 育児休業取得者数

	技術職員	技術補佐員	事務職員	事務補佐員	教員	医療職	その他	合計
2014	2	2	10	5	12	49	2	82
2015	1	4	6	4	16	54	2	87
2016	4	1	8	6	13	60	0	92

今年度育児休業を取得した技術職員2名のうち  
代替要員補充は1名。

もう1名については、教授が不要と申し出た。

# 介護について

# 介護に関する支援：各種制度

---

- **介護休暇（特別休暇）**

- ・負傷、疾病等により2週間以上の期間にわたり、常時介護を必要とする状態にある者の介護のため休業できる

- **介護休業**

- ・要介護状態にある対象家族を介護する職員は、正規の勤務時間の始め 又は、終わりにおいて、1日を通じて4時間を超えない範囲で、就業しつつ介護するため、1時間を単位として184日以下の連続する必要な期間休業できる(3回まで分割可能)(介護部分休業の取得日数は考慮しない)

- **介護（部分）休業**

- ・対象家族について部分休業利用開始日から起算して3年以内であれば何度でも取得可(介護休業の取得日数は考慮しない)

- **介護のための時間外労働の免除**

- ・介護を要する家族を介護する職員が請求した場合、業務の政情は運営を妨げる場合を除き、時間外勤務を免除する

# 介護に関する支援

---

- ライブラリー  
現在の蔵書は6冊
- 介護に関するセミナー  
千葉県ホームヘルパー協議会による  
「事例を通じて学ぶ在宅介護の現状と課題」など
- 育児に関する支援よりも地道

# 介護休業取得者数

	技術職員	技術補佐員	事務職員	事務補佐員	教員	医療職	その他	合計
2014	0	0	3	0	0	1	0	4
2015	0	0	0	0	0	3	0	3
2016	0	0	0	0	0	0	0	0

育児休業より取りにくい面がある

**ワーク・ライフ・バランスを  
実現するために**



# WLBのための支援・制度を周知

---

- 支援活動内容がわかりにくい
- 支援の必要に迫られていない
- 講演会やセミナーに参加できない
  
- ムードルを利用した全教職員用必修の自己点検で支援内容や取得できる休暇等の情報を周知する方法を提案

# 上位職位者や男性職員の意識改革

---

- 育児休業等を申告
  - ⇒ 休業中の仕事は誰がやるんだ
- 代替要員の採用を依頼
  - ⇒ 1年間なら必要ないだろう
- 休業後の時短勤務を認めてもらえない
- 教室系技術職員の場合、上司の教授次第
- 所属する研究室等によって待遇に差をつけない
- 研究室や学科、学部を超えた横のつながりで情報・知恵を共有

# 休業中の代替要員募集

---

- 数か月～1年単位では希望者がいない
- 事務系職員と異なり、技術職員復帰後に代替要員を継続雇用できない
- 非常勤職員にも代替要員を確保してほしい
  
- 人手不足の解消
- 休暇取得促進には代替要員補充は必須
- 代替要員希望の定年退職者登録等は？

# 代替要員が確保できない

---

- はじめから確保できないとあきらめている
- 日ごろから業務内容を情報共有
- 日ごろから業務効率化
- 早めに引継ぎ
  
- 周囲の負担を軽減する工夫  
しかし！
- 上司が代替要員確保を断っているとは！

# 復帰後の勤務体制

---

- いきなりフルタイムでは体が持たない
- 育児部分休業利用で徐々にフルタイムへ
- タイム・マネジメントで効率アップ
  
- 技術職員のフレックスタイム制を検討中
- 業務内容によって在宅勤務を検討希望

# 職場の理解・協力

---

- 理解はしていても業務負担が大きすぎる
- お互い様、だけでは、周囲の理解と協力にも限度がある
- 上司は事務部と連携し、代替要員を必ず補充
- 人員増員
- 仕事量の軽減
- 日ごろからからしっかりコミュニケーション

# 技術職員に適した ワーク・ライフ・バランスを探る

---

- 業務内容・職場環境が多岐に渡る
- それぞれの職場に適した勤務体制
- 経験談と知恵の共有
- 事務部・他部局・他大学との情報共有
  
- そうは言っても、  
上層部の意識が簡単に変わるとは思えない  
  
では、どうすればいいのか？

# 利用する人が声を上げる

---

理解している人を  
トップに！

看護学部と教育学部が  
モデルケース



ご清聴  
ありがとうございました